

発行日 ● 2022年9月26日
発行 ● 一般社団法人 地理情報システム学会

目次

第31回研究発表大会のお知らせ	1p
企画セッション（聴講無料）	1p
大会優秀発表賞およびポスターセッション賞	3p
第31回研究発表大会 日程表（9/9版）	4p

分科会報告	5p
支部報告	5p
GIS資格認定協会より	6p
学会からのお知らせ	6p

第31回研究発表大会のお知らせ

第31回地理情報システム学会研究発表大会を、2022年10月29日（土）・30日（日）に開催いたします。

ハイブリッド開催という異例の大会となります。講演発表、ポスター発表、およびシンポジウムやワークショップ、ハンズオンセッションなど多彩な企画もございますので、奮ってご参加下さい。

詳細は、学会ホームページをご覧下さい。学会当日でもいろいろな変更の可能性がありますので、必ず最新の情報をご確認ください。

なお、平成27年度より、講演発表・ポスター発表の発表者には、測量CPD学習プログラムのポイントが付与されます。 大会で発表した場合、(1)領収書は「GIS上級技術者」への申請にお使いいただけます。(2)「測量系CPD学習プログラム」への申請を希望する方は、**大会後にメールで事務局へ「氏名」「発表番号」「発表タイトル」を連絡下さい。**

日 程： 2022年10月29日（土）・30日（日）
会 場： 沖縄産業支援センター（那覇市）+オンライン
※29日午前のセッションは全てオンラインで開催されます。
それ以外の対面でのセッションも、配信でご参加いただけます。

大会参加費：
正会員または賛助会員 4,000円
学生会員 3,000円
非会員 7,000円
高校生以下、70歳以上 無料
(年齢を証明するものを提出下さい)

※現地での受付は行いません。10月17日（月）までに事前登録をお願いします。

詳しくは大会Webページをご覧ください。
※講演論文集（CD-ROM）の申込みは締め切りました。
※大会期間は第7回世界のウチナーンチュ大会と重なります。
https://www.gisa-japan.org/content/files/7th_oki_uchi.pdf

企画セッション（聴講無料）

◆ワークショップ◆

【Geocomputation with R勉強会】

日 時：10月29日（土）8:20-12:00

会 場：オンライン開催

企 画：岩崎亘典（FOSS4G分科会）

参加申込：<https://bit.ly/gisa31-foss4g>

講師：青木和人、馬場美彦

（アシスタント：小野原彩香、岩崎亘典）

Rは、オープンソースの統計解析ソフトとして広く知られており、地理空間情報の解析も可能です。近年、Rの地理関連パッケージが大きく変わっています。本セッションでは、「Geocomputation with R」*をもとに、新しくなった地理関連パッケージの使用法を習得することを目的とします。

「Geocomputation with R」は、英語版の第一版は2019年に出版されました。しかし、その後主要なパッケージが2023年までに新しいパッケージに後継を譲ることになりました。引退するパッケージには、rgdal、rgeos、maptoolsなどがあります。このため、新しく、sfやterraを使った第二版を作成中です。この勉強会では、第二版を元に行い、第二章「Rで地理データ」までを実行できる事を目標とします。勉強会の実施に当たっては、RStudio.cloudまたはBinderで、インストール済みの仮想環境を使用します。

*オリジナル：<https://geocompr.robinlovelace.net/>

日本語訳：<http://babayoshihiko.ddns.net/geo/>
または <http://124.219.182.167/geo/>

◆シンポジウム◆

【デジタルアース研究の現状と課題】

日 時：10月29日（土）10:20-12:00
会 場：オンライン開催
企 画：福井弘道（中部大学）
参加申込：不要

中部大学国際 GIS センターは、2014 年に文部科学大臣による共同利用・共同研究拠点の認定を受け「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」として、GIS をはじめ、情報科学、リモートセンシング、社会工学等に関する研究者との共同利用・共同研究を通じて、サイバースペース上に構築される多次元・多解像度の地球（デジタルアース）の研究開発を推進してきました。さらに環境、災害、感染症等の問題複合体の研究者に対し、デジタルアースを提供し、共同利用・共同研究により持続可能な社会を構築するため、問題複合体を解題し、合意形成に寄与するとともに関連諸科学の発展に貢献することを目的としています。本セッションでは、2021 年度の拠点の共同研究成果の報告と、関連研究者によるパネル・ディスカッションを行い、デジタルアース研究分野と問題複合体への学術によるアプローチについて展望します。

◆シンポジウム◆

【第 17 回マイクロジオデータ研究会「空き家問題の最前線～マイクロジオデータで迫る空き家の現在と将来～】

日 時：10月29日（土）14:00-18:20
会 場：沖縄産業支援センター（312 会議室）
企 画：秋山祐樹（東京都市大学）
参加申込：<http://microgeodata.jp/contents/mgd17.html>

2011 年に発足した本研究会は、マイクロジオデータ（MGD：位置情報や時間情報を有する時空間的に高精細なデータや統計の総称）の普及と利活用について産官学の有識者を中心に議論を行ってきました。MGD は既存の各種統計・空間データでは実現しえなかつた、時空間的にきめ細やかな分析や計画支援等への利活用が期待されています。

今回の MGD 研究会では、近年全国的に顕在化しつつある空き家問題について、MGD を活用してその現状や将来について迫っていく予定です。具体的には MGD を活用した空き家分布状況の把握技術の開発や、空き家分布情報の分析・活用事例、また具体的な政策に活かすまでの課題などについて、産官学の有識者から具体的な研究や事例の紹介を交えつつ議論を深めたいと考えています。

◆ハンズオン◆

【クラウド GIS 体験】

日 時：10月29日（土）14:00-16:00
会 場：沖縄産業支援センター（303 会議室）
企 画：土田雅代（ESRI ジャパン株式会社）
参加申込：masayo_tsuchida@esrij.com

インターネットの接続環境があれば、どこでも、どの端末でも利用できるクラウド GIS である ArcGIS Online を使って、Web マップの作成、ArcGIS Online Apps などを体験します。

必要なライセンスは弊社にて用意しますので、各自インターネット接続可能な PC およびタブレットのどちらかをご用意ください。

◆ハンズオン◆

【ArcGIS API for Python 体験】

日 時：10月29日（土）16:20-18:20
会 場：沖縄産業支援センター（303 会議室）
企 画：土田雅代（ESRI ジャパン株式会社）
参加申込：masayo_tsuchida@esrij.com

Python をブラウザ上でインタラクティブ(対話的)に実行できるツールである Jupyter Notebook をを利用して Web マップと地理空間データを扱うための Python ベースの API を体験します。

必要なライセンスは弊社にて用意しますので、各自インターネット接続可能な PC およびタブレットのどちらかをご用意ください。

動作環境：ESRI ジャパン (esrij.com)

<https://www.esrij.com/products/arcgis-api-for-python/environments/>

◆シンポジウム◆

【学生フリーテーマ発表会】

日 時：研究発表セッション 10月29日（土）16:20-18:20
交流セッション 10月30日（日）10:50-12:50
会 場：沖縄産業支援センター（101 会議室）
企 画：若手分科会
参加申込：発表希望者のみ申込が必要（聴講は申込不要）
<https://sites.google.com/view/gisa-wakate/session>

若手分科会では、研究発表大会が学生のみなさんにとっても成果発表の場および研究交流の場になってほしいと考え、本年度も「学生フリーテーマ発表会」を企画します。本年度も成果発表セッションと交流セッションの 2 セッションを開催します。

前者は一定の研究成果が出ている学生さんを対象に、通常の口頭発表セッションに近い形で運営します。優秀な研究発表と将来性のある研究テーマについて、それぞれ分科会として表彰予定です。

後者は構想段階での研究発表、講義やゼミなどでの取り組みを紹介することを重視し、発表時間よりも質疑応答や意見交換の時間を長くとります。いずれも学生さんであれば学年や分野、個人・共同を問わず発表できます。他大学、他分野の学生さんと交流する機会としてぜひ発表をご検討ください。

◆ワークショップ◆

【オープンで、皆で使える空間データの動向（技術・サービス・各国制度）～OGC と日本の研究・実践の連携について】

日 時：10月30日（日）8:30-12:50
会 場：沖縄産業支援センター（312 会議室）
企 画：福井エドワード（海岸通り PJ/Clean Green Asset Management）
参加申込：不要

世界の各都市でデジタルツインが整備され注目を集めている。3Dデータを取得、共有する技術・サービスのプラットフォームの構築が急速に進んでいるが、問題点として、規格やソフトウェアも多様で、一般的の普及の障害が指摘されている。この問題から、何に役に立つか、ユースケースがまだ少ないので、わとり卵の状況が生まれている。

ひろく世界での知見を共有するため、OGC（Open Geospatial Consortium）と、日本の教育・実践の連携を活発にするための方策を議論したい。

◆ワークショップ◆

【基礎自治体におけるベースレジストリと GIS】

日 時：10月30日（日）8:30-10:30

会 場：沖縄産業支援センター（101会議室）

企 画：青木和人（自治体分科会）

参加申込：不要

皆さん、自治体の GIS 担当部署の組織名が変更されていることをご存知でしょうか。従来の「情報政策課」等の組織名が「DX 推進課」等のデジタルトランスフォーメーションを冠した名称に変わってきています。これ等の名称変更に込められた自治体の思いは、「アナログからデジタルへの転換」を超えて、「デジタルを前提とした組織や仕組みの改変」をめざすという意気込みではないでしょうか。

自治体にとって GIS は既に業務の効率化が目的ではありません。これまで府内で共用されていたデータの他、利用が限定されていたデータもうまく活用して、新たなバーチャル環境を築いていく役割を担うものになっていくということです。

当セッションは、この変革のまっただ中にある自治体 GIS が、DX 推進の基礎と定義されるベースレジストリ（人、法人、土地、建物、資格）の運用や利活用について、自治体視点での話題提供と、自治体分科会ならではの議論を行い、地域の最前線に立つ基礎自治体のベースレジストリの在り方について検討します。

◆ワークショップ◆

【災害時の状況認識図作成支援活動】

日 時：10月30日（日）10:50-12:50

会 場：沖縄産業支援センター（303会議室）

企 画：畠山満則（防災 GIS 分科会）

参加申込：不要

近年、気候変動の影響により風水害は巨大化、高頻度化する傾向にある。また、阪神・淡路大震災以降、日本全国で50人以上の死者・行方不明者を出した地震が10年程度のサイクルで発生していることを鑑みると災害への備えは最重要課題ともいえる。災害時には状況認識図（Common Operating Picture）を用いた認識の統一が重要と言われているが、これらは、位置と時間が付随した情報として管理することが必須であり、GIS の役割は大きいことが近年の災害で示されている。これまで、地理情報システム学会では防災 GIS 分科会を中心となり、災害支援活動を行ってきた。これらの経験を総括し、今後の災害時の状況認識図作成支援の在り方について議論を行う。

◆シンポジウム◆

【初等中等教育における GIS を活用した授業に係る優良事例表彰】

日 時：10月30日（日）13:50-15:50

会 場：沖縄産業支援センター（312会議室）

企 画：塚本章宏（教育委員会）

参加申込：不要

日本学術会議からの提言や学習指導要領などでは、初等中等教育現場において GIS(地理情報システム)を実践的に活用した授業の展開が求められている。とりわけ高等学校の必修科目「地理総合」において、GIS を活用する能力の習得が明確に位置付けられている。こうしたなか、地理情報システム学会では、教育現場での GIS 活用の普及・展開の契機として、授業計画やその実践において GIS を活用した優良事例を表彰している。

本セッションでは、2022年度に実施された、初等中等教育において GIS を活用した授業のうち、優良事例について表彰する。そして、表彰者による事例発表を行い、活用現場や教材開発についてのノウハウや有用性、ならびに解決すべき諸課題などの情報交換を通して、今後の発展を図る。

◆大会優秀発表賞およびポスターセッション賞◆

【第18回大会優秀発表賞】

対象者は本学会の学生会員（年会費完納者）であり、修士号未修得の、口頭発表者に限られます。研究（論文）内容や発表技術の優秀者からセッション司会者が受賞候補者を推薦し、学会賞委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者数は特に定めません。受賞者の発表は11月4日（金）までに、受賞者自身に通知するとともに、学会WebページやTwitter等に掲載します。

受賞者には賞状を後日送付し、ニュースレター124号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol.30, No.2に発表要旨を掲載（白黒印刷のみ）します。受賞者は11月15日（火）までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

【第11回ポスターセッション賞】

ポスターセッション参加者全員が審査の対象です。投票方法については、参加登録者に別途ご案内いたします。なお、今回ポスターセッションは1日のみの開催で、投票も当日中に限られますのでご注意ください。

受賞者の発表は11月4日（金）までに、受賞者自身に通知するとともに、学会WebページやTwitter等に掲載します。受賞者には賞状を後日送付し、ニュースレター124号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol.30, No.2に発表要旨を掲載（白黒印刷のみ）します。受賞者は11月15日（火）までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

第31回研究発表大会 日程表（9月9日版）

※ 通常の口頭およびポスターセッションへの参加には、参加登録と大会参加費が必要です。

※ 企画セッションの参加は、企画によって登録が必要なものがあります（参加費は不要）。

「白色のセッション」はハイブリッド開催（対面・オンライン）の口頭発表のセッションです。

「黄色のセッション」はオンライン開催の口頭・ポスター発表のセッションです。

「水色のセッション」はハイブリッド開催（対面・オンライン）の企画セッションです。

「緑色のセッション」はオンライン開催の企画セッションです。

※ 開始時間等が変更になる場合もあります。最新情報は必ず大会webページでご確認ください。

10月29日(土)

	会場S	会場A	会場B	会場C	会場D	
8:20-10:00	S-01 Geocomputation with R 勉強会 (オンライン)	A-01 立地・景観 (オンライン)	B-01 防災 (オンライン 1)	8:40開始 C-01 環境・データ理論 (オンライン)		
10:20-12:00		A-02 デジタルアース研究 の現状と課題 (オンライン)	B-02 防災(オンライン 2)・ 犯罪	C-02 行動分析 (オンライン)		
12:00-12:30	ポスターセッション 奇数番号（最終投票時間 29日23:59）					
12:30-13:00	ポスターセッション 偶数番号（最終投票時間 29日23:59）					
	会場S(312会議室)	会場A(101会議室)	会場B(102会議室)	会場C(302会議室)	会場D(303会議室)	
14:00-16:00	S-1 第17回 マイクロジオデータ 研究会 「空き家問題の最前 線～マイクロジオ データで迫る空き家 の現在と将来～」	A-1 3次元モデル	B-1 防災(1)	C-1 移動(1)	クラウドGIS体験	
16:20-18:20	A-2 学生フリーテーマ発 表会 「研究発表セッショ ン」	B-2 空間分析	C-2 観光	D-2 ArcGIS API for Python体験		

10月30日(日)

8:30-10:30	S-3 オープンで、皆で使 える空間データの動 向(技術+サービス・ 各制度)～OGCと 日本の研究・実践の 連携について	A-3 基礎自治体におけ るベースレジストリと GIS	8:50開始 B-3 人口・居住	9:10開始 C-3 移動(2)	D-3 不動産・経済
10:50-12:50		A-4 学生フリーテーマ発 表会 「交流セッション」	B-4 景気・自然環境	C-4 住居	D-4 災害時の状況認識 図作成支援活動
13:00-13:10	学会賞授賞式				
13:50-15:50	S-5 2022年度 初等中 等教育におけるGIS を活用した授業に係 る優良事例表彰	A-5 都市計画	B-5 防災(2)	C-5 地域分析	D-5 犯罪・事故

【分科会報告】

■ 若手分科会

若手分科会では、新規メンバーを募集しています。分科会はこれまでにも学会内で複数の企画を実施しています。その企画の立案・運営に携わってみませんか？

これまでより継続的に実施しており、今年度も秋の学会大会で企画セッションとして行う企画が「学生フリーテーマ発表会」です。発表者を学生に限定し、研究発表や意見交換を行うことで、学生のみなさんに学会発表のきっかけを提供することを目指しています。また、これまでに、若手会員の意識調査や、GIS実技系授業のオンライン化に関するアンケートなどの分科会独自の企画も実施し、学会活動、さらにはGIS関連のコミュニティを盛り上げていこうと活動中です。

年度途中からの分科会への参加も歓迎します。このニュースレターを見て参加してみたいと思った方は、是非ご連絡ください。9月中旬にご連絡いただければ、今年度の学生フリーテーマ発表会の運営に関わることもできます。若手分科会への参加を希望される方は代表の閑口までお知らせください。学生だけでなく、企業の方、大学教員など30名ほどが参加しています。（閑口達也：ta-sekiguchi@kpu.ac.jp）

■ IoT×GIS 分科会

【代表 厳網林】

2022 Summer Seminar実施報告

GeoCPSの新展開-IoTプラットフォームから都市OSへ

2022年7月21日（15:00-17:30）に慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎にて、「地理情報システム学会IoT×GIS分科会’2022 Summer」を対面・オンラインのハイブリッドの形式で開きました。会場に10名、オンライン5名の合計15名が参加されました。

今回の勉強会は「GeoCPSの新展開-IoTプラットフォームから都市OSへ」をテーマに、当分科会がかねてから推進してきたGeoCPSプラットフォームの開発と社会実験の新しい進展を報告しました。GeoCPSプラットフォームは最先端マイクロセンサ、トリリオンノード（仕様名Leafony）を用いた都市環境のセンシングと持続可能なまちづくりへの支援を目的としたものです。新型コロナのため、分科会の対面活動が停滞していましたが、GeoCPSのシステム開発と社会実験は続けてまいりました。今勉強会では、GeoCPSのシステム構築と社会実験の結果及び今後の展望について情報共有と意見交換を行いました。

まずアドソル日進株式会社デジタルイノベーション事業部村上佳史氏より「マイクロIoTによる都市センシングシステムの構築と事例」について、横浜市青葉区たまプラーザエリアにおいてLoRa搭載のトリリオンノードによるIoTプラットフォームの構築方法、都市環境センシングの実装方法及び結果を報告しました。次に慶應義塾大学政策・メディア研究科中山俊氏からトリリオンノードによるクラウドデータの処理及び結果の技術検証を報告しました。今回のシステム構築及び実験結果からみると、LoRa通信は市街地においても1km以内なら通信可能、500m以内なら比較的安定したデータを取得

できることがわかりました。また単三電池1本で10分間隔の測定だと最大28日間持続可能であることも明らかにしました。このような条件であれば、トリリオンノードは都市環境センシングに不可欠な通信と電源供給のボトルネックを大幅に解消できることがわかりました。このような結果を踏まえて、慶應義塾大学政策・メディア研究科厳網林よりGeoCPSプラットフォームから都市OSへ展開する可能性と実現の方法を報告しました。それをさらに強力にサポートする新トリリオンノード、LTE-Mリーフが開発されていることを、トリリオンノード研究会代表／東京大学名誉教授桜井貴康氏より報告いただきました。LTE-MリーフはKDDIのキャリア通信とクラウドサービスを使うため、ユーザは現地で通信とサーバー環境を構築する必要はなくなり、大幅に負担を減らすことができます。これで“いつでも、どこでも”センシングするIoTの理念に一層近づけることがわかりました。最後に会場とオンラインの両方から技術や応用について活発な質疑と議論を行いました。たとえば、通信距離は市街地密度・地形によること、電池持ちの時間は送信のコンカレントによるトライの数にも影響されること、GeoCPSのコンセプトと技術は土木コンサルタント業務や参加型まちづくりにたいへん有効であること、センサ設置環境に工夫してデータの信頼性を高めることなど、みんなの関心が集まりました。短い時間でしたが、たいへん有意義な勉強会でした。引き続き開発と実験を行い、システムの頑強性とデータの信頼性を高めて、GeoCPSを都市OSへ発展していきたい。



【支部報告】

■ 中国支部

【支部長 川瀬正樹】

第28回「GISセミナー・中国」を開催しました

第28回「GISセミナー・中国」（ヒロシマ被爆体験を次世代に継承するための原爆痕跡地図作成GISワークショップ）を、2022年7月31日（日）に、広島工業大学広島校舎にて開催しました。

広島には、被爆した建物や樹木、橋などが多く残されています。被爆の事実を記したモニュメントや慰靈碑もたくさんあります。午前中のフィールドワークは、様々な年齢層で構成されるグループをつくり、それぞれ担当する地区に分かれて行いました。中学生が中心となり、広島市の中心市街地で、被爆建物や被爆のモニュメントを探しあって、位置を確認し、記録してきました。午後のワークショップでは、その記録をGISを使って地図にまとめ、発表し、参加者相互が理解を深めました。

このワークショップは、被爆体験継承の方策の一つとして、2006年以来、毎年開催していました。2020年以降、コロナ禍で実施できずにいましたが、今年度久しぶりに再開することができました。参加者は、小学生1名、中学生5名、中・高教員1名、スタッフ6名、その他2名の合計15名で、以前に比べると少人数になりましたが、被爆者の方の貴重な証言を聞きながら、充実した時間を過ごすことができました。

私たちは、このワークショップを継続していくことが大事だと考えており、来年度以降も引き続き開催していく予定です。このワークショップはGIS学会の会員でなくても参加可能です。毎年6月頃に中国支部のWebサイトでアナウンスしますので、関心のある方はぜひご参加ください。

【GIS 資格認定協会より】

GIS 資格認定協会 (GISCA) では、GIS 教育プログラムの認定を行っております。GIS 学会員、GIS 学会の賛助団体の構成員あるいは関連学協会等の会員からの申請により、①過去 1 年以上申請する教育を実施していること、②大学の学部以上の教育レベルであること、③教育内容が地理空間情報分野の知識体系の範囲に入っていることを GISCA で審査します。GIS 教育プログラムとして認定されると、向こう 5 年間、GISCA ホームページで公開するとともに、GIS 教育認定プログラム参加証等を発行することができます。このプログラムへの参加者は、参加証等を GIS 上級技術者の申請・更新時に教育実績の証拠として利用することができます。GIS 教育認定プログラムの審査は無料で行っておりますので、ぜひこの制度を活用し、価値ある GIS 教育機会の増加と PR を図っていただきたく存じます。詳しい情報につきましては GISCA ホームページの GIS 教育認定のページをご覧ください。

(GISCA 大伴真吾)

【学会からのお知らせ】

■ 2022年度IAG'i国際シンポジウム

会期：11月3日（木）～5日（土）
※ KAGISの秋季学術大会内で開催
IAG'iの日程は決まり次第ご案内します。
会場：済州大学校（我羅キャンパス／韓国・済州島）
アラコンベンションホール
発表方法：対面発表（オンライン発表となる可能性有）
※ 発表時間は一人20分（15分発表+5分質疑・英語）です。
※ セッション時間内の質疑応答（英語）に対応してください。

【発表登録とスケジュール】

- ① 9月30日（金）18時までに事前登録（以下のフォームの送信）を行ってください。
→ <http://www.kagis.or.kr/conference/conference03.html>
- ② 10月7日（金）18時までに論文提出を行ってください。
→ <http://www.kagis.or.kr/conference/conference06.html>

【参加費】

事前登録のフォーム (<https://forms.gle/iudFEAcF6RmwThBp8>) からの申込みに限り、GISAからの参加者が10名以内の場合、参加費は無料です。11名以上の場合は、学生発表者を優先して無料とします。

■ 委員会、支部、分科会への ZOOM の権限貸与について

本学会では、学会活動を活発化するために、各委員会、支部、分科会の会議に限り、学会事務局の ZOOM の権限を貸与します。

ご希望の方は、以下のルールに従ってお申込みください。

1. 事務局に原則として 1 週間前までに事前申請する会議の設定・開催は各グループの自由裁量とする。
2. ホストのグループを明示する。
3. 会議終了後には、開催記録（開催日時、参加者等）の基本情報を事務局に報告する。
4. 会議は必ずパスワード付きで開催し、第三者には明かさない

■ メールニュース受信についてのお願い

BCC または配信先が多数のメールを受信できない設定の企業等団体の方で、学会メールニュースをお読みになりたい方は、個人のメールアドレスを事務局までお知らせください。また、アドレスが変更になった場合は、変更届の提出をお願いいたします。

<https://www.gisa-japan.org/member/login.php>

■ メールニュースへの掲載ご希望の方へ

学会では個人会員を対象に、メールニュースを配信しています。内容は学会からのお知らせ、関連イベント、公募情報が主ですが、掲載をご希望の方は、以下をご参照の上、事務局までお申し込み下さい。

<http://www.gisa-japan.org/news/request.html>

なお、ニュースの配信は、毎月第 2・第 4 金曜日を目安にしています。

■ 会議の場所をご提供します

分科会 (SIG)、委員会、支部など、学会活動に関することで会議をしたいが場所が無い…という方は、事務局までお申し出ください。事務局が入居している学会センタービルの地下に、貸会議室があります。予約制ですので、お早目にお問い合わせください。

料金：無料

時間：月曜日から金曜日の 10:00～17:00

注意：インターネットのご利用は出来ません

2022年8月末現在の個人会員 1082名、 賛助会員 50社

賛助会員

朝日航洋㈱, アジア航測㈱, アドソル日進㈱, ㈱インフォマティクス, ESRI ジャパン㈱, NEC ソリューションイノベータ㈱, NTT タウンページ㈱, 愛媛県土地家屋調査士会, 応用技術㈱, 大阪土地家屋調査士会, ㈱かんこう, 関東中部G 空間情報技術研究会, ㈱岐阜県建設研究センター, 九州GIS 技術研究会, 近畿北陸G 空間情報技術研究会, ㈱こうそく, 国際航業㈱, 国土情報開発㈱, ㈱古今書院, GIS 支援センター、GIS 総合研究所いばらき, ジェイアール西日本コンサルタンツ㈱, ㈱ジオテクノ関西, ㈱ゼンリン, 中四国 G 空間情報技術研究会, デジタル北海道研究会, 東北 G 空間情報技術研究会, ㈱ドーン, 長野県 G 空間情報技術協会, にいがた GIS 協議会, 日本工営都市空間㈱, 日本情報経済社会推進協会, 日本スーパー・マップ㈱, ㈱日本測量調査技術協会, ㈱日本地図センター, パシフィックコンサルタンツ㈱, ㈱パスコ, 東日本総合計画㈱, 北海道 G 空間情報技術研究会, ㈱マップクエスト, ㈱マップル, ㈱松本コンサルタント, 三菱電機㈱, 三菱UFJ リサーチ&コンサルティング㈱, ㈱リモート・センシング技術センター
自治体会員：経済産業省特許庁, 総務省統計局統計研修所, (独) 統計センター, 長野県環境保全研究所, 福岡県直方市

学会分科会連絡先一覧

●自治体：小泉和久（千葉県浦安市） 事務局：青木和人（あおきgis研究所） Tel : 050-5850-3290 E-mail : kazu013057@gmail.com	●FOSS4G : Venkatesh Raghavan (大阪市立大学) 連絡先：嘉山陽一（朝日航洋㈱） Tel : 049-244-4032 E-mail : youichi-kayama@aeroasahi.co.jp
●ビジネス：高阪宏行（地理情報技術研究所） Tel : 03-5379-5601 E-mail : info@georetail.tokyo	●若手分科会：関口達也（京都府立大学） Tel : 075-703-5428 E-mail : ta-sekiguchi@kpu.ac.jp
●防災GIS：畠山満則（京都大学防災研究所） Tel : 0774-38-4333 E-mail : hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp	●IoTとGIS：巖網林（慶應義塾大学） Tel : 0466-49-3453 E-mail : yan@sfc.keio.ac.jp
●地図・空間表現：若林芳樹（東京都市立大学） Tel : 042-677-2601 E-mail : wakaba@tmu.ac.jp	

地方支部の連絡先一覧

<北海道支部> 支部長：株式会社ドーコン 三好達也 連絡先：NPO 法人 Digital 北海道研究会（内） Tel : 011-299-8104, E-mail: gisahokkaido@dghok.com	<中国支部> 支部長：広島修道大学 川瀬正樹 Tel : 082-830-1210, E-mail : kawase@shudo-u.ac.jp
<東北支部> 支部長：東北大学 井上亮 Tel : 022-795-7478, E-mail : rinoue@tohoku.ac.jp	<四国支部> 支部長：香川大学 野々村敦子 Tel : 087-864-2146, E-mail : nonomura@eng.kagawa-u.ac.jp
<中部支部> 支部長：中部大学 福井弘道 連絡先：杉田暁（中部大学） Tel : 0568-51-9894 (内線 5714) E-mail : satoru@isc.chubu.ac.jp	<九州支部> 支部長：九州大学 三谷泰浩 Tel : 092-802-3399, E-mail : gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp
<関西支部> 支部長：大阪工業大学 吉川眞 連絡先：田中一成（大阪工業大学） Tel : 06-6954-4293, E-mail : gisa@civil.oit.ac.jp	<沖縄支部> 支部長：沖縄国際大学 崎浜靖 E-mail : sakihama@okiu.ac.jp 連絡先：澤城 直彦 (NPO 法人沖縄地理情報システム協議会) Tel : 098-863-7528, E-mail : takushi7015keisayasaki@gmail.com

■ 編集後記 ■

大学は夏休み期間中で、キャンパス内に現在は学生さんが少ないですが、ほぼ完全に講義がオンラインだった一昨年や、オンラインと対面の併用だった昨年に較べると、今年は学生さんと直接顔を合わせる機会がだいぶ戻ってきました。やはり対面は活気が違い、得られる情報の質も異なるようです。

今年度の大会は、2年ぶりに対面（ハイブリッド）での開催が叶いそうです。さらに、沖縄県での大会ということで、私も心待ちにしている一人です。関係者・事務局の皆さんには大変にお世話になりますが、今年多くの参加者で活発な議論が行われることを期待しています。

(中部大学 杉田暁)

地理情報システム学会ニュースレター

第 123 号 ●発行日 2022 年 9 月 26 日

■ 発行

一般社団法人 地理情報システム学会

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org
URL: <http://www.gisa-japan.org/>

■ 弥生雑記 ■

オンラインとの併用とはいえ、2年ぶりに対面での大会がなんとか開催できそうです。事務作業的に2年間のブランクは意外に大きく、資料やマニュアルを引っ張り出しながら右往左往の毎日です。
なかなか COVID-19 の収束の見通しがつかない中、世界も騒がしくて落ち着きません。でも、みなさまとお目にかかる日を楽しみにしています。
お気をつけてお越しください。

(学会事務局)

